

町村週報

(町村の購読料は会費)
の中に含まれております)

3346号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 横田真二：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-47697

<https://www.zck.or.jp/>

雲取山からの初日の出(山梨県丹波山村) (写真提供:丹波山村)

も く じ

随 情 情 情 フォーラム 政
想 報 報 報 策

地域就職氷河期世代等支援推進交付金の募集について………
「競走馬の里」美浦村へ観光資源を生かしたまちづくり………茨城県美浦村………
新任都道府県町村会長の略歴………
まちむらの魅力発信………
町村ご当地キャラじまん………
神集つ島神津島………
東京都神津島村長 前田 弘
(12) (11) (10) (8) (5) (2)

写真キャプション

東京都奥多摩町・埼玉県秩父市・山梨県丹波山村にまたがる日本百名山の一つ「雲取山」の標高は2,017m。東京都最高峰からの初日の出を求めて、毎年多くの人が訪れる。山頂からの眺望は素晴らしく、晴れた日には富士山や南アルプス、東京湾まで見渡せる。『鬼滅の刃』の主人公・竈門炭治郎の出身地としても話題に。

コラム

報告書が示唆する未来と、丹波山村の「現在地」

早稲田大学政治経済学術院教授

稲 継 裕 昭
いな つぐ ひろ あき

令和7年6月に公表された「持続可能な地方行政のあり方に関する研究会」報告書⁽¹⁾は、自治体が直面する厳しい現実を浮き彫りにした。生産年齢人口の急減に伴う自治体職員不足、特に技術職や専門職の不足は深刻だ。報告書は、市町村が単独でフルセットの行政サービスを維持することの限界を示唆し、事務の抜本的な見直しや広域連携、さらには都道府県による補完の必要性を説いている。理論的な解決策は示されたが、現場の苦悩はより切実だ。

この報告書が描く危機的な未来図を、既に「日常」として遅し乗り越えようとしている村を訪ねた。山梨県北東部、東京都との県境に位置する丹波山村である。人口500人弱、地域の97%を山林が占めるこの村は、東京都の水源涵養林を守る重要な使命を担っている。村内に信号機は一つしかなく、鉄道駅もコンビニもないが、ここには行政の原点とも言えるべき光景がある。

同村の広報誌には⁽²⁾、丹波山村行政組織図が掲載されている。自治体の組織図と言え、部課名や係名が並ぶのが通例だが、同村では全職員(常勤は保育士等を含めて24人)の氏名とその担当業務が掲載されており、1人の職員が担当業務の幅広さに驚かされる。ある職員の氏名の横には、「戸籍、住民基本台帳、マイナンバー、児童福祉、国民年金、新型コロナウイルス対策、行政相談」と書かれている。そしていずれも彼1人で担当している。「究極の

多能工」だ。これを「専門性の欠如」と切り捨てることはたやすい。しかし、そうしなればフルセット型の自治体事務は回らない。報告書では、小規模団体の事務処理体制の確保が課題とされているが、丹波山村の職員は、強制された「多能工化」の中で、自分の仕事が生民の生活にどう直結するかを肌感覚で理解している。これは、業務が細分化され、住民の顔が見えにくくなった大規模自治体が失ってしまった強みだ。

もちろん、彼らの献身に甘え続けることはできない。報告書にあるように、道路や水道といったインフラの維持管理や、高度な専門知識を要する業務については、県や国が積極的に支援し、あるいは肩代わりする仕組みが不可欠だ。広域的な支え合いの中で、村独自の魅力ある施策(ソフト事業)に職員が注力できる環境を作ること。それが、報告書がめざす「持続可能な地方行政」の解の一つではないだろうか。

丹波山村の組織図は、過酷な現状を示す資料であると同時に、行政における「人」の可能性と、それを支える制度の必要性を無言のうちに訴えかけている。

(1) https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/kenkyu/jizokukanonachihozaisei/
(2) 「広報丹波」令和7年6月号11頁
<https://www.vll.tabayama.yamanashi.jp/kouho/images/kohotaba187.pdf>

地域就職氷河期世代等 支援推進交付金の募集について

1 就職氷河期世代等への支援について

いわゆる就職氷河期世代の方（おおむね1993年（平成5年）から2004年（平成16年）に就職活動を行った世代。）の中には、バブル崩壊後の雇用環境が厳しい時期に就職活動を行ったため、希望する就職ができず、現在も不本意ながら非正規雇用で働いている方や、社会参加が困難な状態にある方など、さまざまな課題に直面している方々がいます。

政府では、2019年から、「就職氷河期世代支援プログラム」に基づき、就職氷河期世代の処遇改善や正規雇用者の増加に向けて、集中的な支援に取り組んできました。

集中取組期間は2024年度で一旦終了しましたが、就職氷河期世代に対しては、**その周辺の世代と合わせ**、引き続き、正規雇用化や継続就労、社会参加などに加え、高齢期を見据えた準備など、個々人の課題やニーズに応じたきめ細かい支援を効果的に実施していく必要があります。

このため、今年度新たに関係閣僚会議を立ち上げ、昨年6月に「**新**

な就職氷河期世代等支援プログラム
の基本的な枠組み」を決定しました。

「基本的な枠組み」は、従来から推進してきた①**就労・処遇改善に向けた支援**、②**社会参加に向けた段階的支援**については、継続・拡充するとともに、就職氷河期世代のシニア化に伴い、新たな課題となっている家計改善・資産形成や住宅確保等の③**高齢期を見据えた支援**を加えた3本柱に沿って、今後の支援の在り方を整理しました。

具体的には、①就労・処遇改善に向けた相談対応等の伴走支援やリ・スキリング支援の拡充、②社会参加に向けた支援として、ひきこもり状態にある方の居場所づくり等の支援の強化、短時間勤務等の柔軟な働き方の支援、③高齢期を見据え、家計改善・資産形成に取り組む機会の充実、見守りなどの支援が提供される居住サポート住宅の創設、介護と仕事の両立のための支援の充実等の施策を盛り込んでいます。

今年度内を目標に、この「基本的な枠組み」を踏まえて、KPIを含む新たな支援プログラムを取りまとめることとしています。新たな支援プログラムの実施期間は、当面3年

間程度（2028年度まで）の集中的な取組とすることを想定しています。

就職氷河期世代とその周辺の世代が抱えている課題やニーズは個々人によってさまざまであり、地方公共団体が個々人の実情に合わせて行う支援が不可欠です。地方公共団体の皆様においても、後にご紹介する交付金もご活用いただきつつ、就職氷河期世代等の方々の現在と将来の暮らしへの不安を軽減するための取組をご検討いただけますと幸いです。

2 交付金について

上述のとおり、いわゆる就職氷河期世代の方が直面している課題は、当事者の方々やそのご家族だけの問題ではなく、社会全体で受け止めるべきものであり、国や地方公共団体の将来にも関わる重要な課題です。また、当事者の方々の当面の目標はそれぞれ異なっています。例えば、正規雇用での就労や在宅ワーク等を含めた柔軟な働き方を生かした就労、より緩やかな社会参加など、個々人によって多種多様です。さらに、個々の生活基盤である地域の実情も

政 策

2025年6月3日 就職氷河期世代等支援に関する関係閣僚会議

新たな就職氷河期世代等支援プログラムの基本的な枠組みについて

～生まれた時代で不遇も不公平もない国へ！～

1. 就労・処遇改善に向けた支援	2. 社会参加に向けた段階的支援	3. 高齢期を見据えた支援
<p>①相談対応等の伴走支援</p> <p>ハローワーク専門窓口で、賃金が上昇する転職・処遇改善に資する訓練情報を提供（新規）</p> <p>②リ・スキリングの支援</p> <ul style="list-style-type: none">非正規雇用労働者等を対象とするオンライン訓練の全国展開（拡充）資格やスキル標準と結びつく教育訓練給付金指定講座の拡大（拡充）企業を通じたキャリア形成の支援（拡充） <p>③就労を受け入れる事業者の支援</p> <ul style="list-style-type: none">トライアル雇用助成金の充実（拡充）特定求職者雇用開発助成金の充実（拡充） <p>④家族介護に直面する者の介護離職防止に向けた支援</p> <ul style="list-style-type: none">両立支援等助成金の充実（拡充）地域の介護サービス提供体制の確保（継続） <p>⑤公務員採用・業種別の就労支援</p> <ul style="list-style-type: none">国家公務員・地方公務員としての中途採用（継続）教員としての中途採用（拡充）農業・建設業・物流業における就労支援（拡充）	<p>①社会とのつながり確保の支援</p> <ul style="list-style-type: none">ひきこもり支援の広域連携等を推進し、相談支援を行う自治体を拡大（拡充）氷河期等交付金における、居場所づくりに取り組む自治体支援のメニュー化（新規） <p>②就労に困難を抱える者の職業的自立に向けた支援</p> <p>地域若者サポートステーションにおける地域の公認心理師等を活用した相談（拡充）</p> <p>③柔軟な就労機会の確保</p> <ul style="list-style-type: none">認定就労訓練事業（中間的就労※）の積極活用（拡充）氷河期等交付金における、中間的就労の機会創出に取り組む自治体支援のメニュー化（新規） <p>※中間的就労 すぐに一般企業で働くことが難しい者が、個人の能力や適性、状況に応じて支援を受けながら柔軟に働くこと。</p>	<p>①家計改善・資産形成の支援</p> <ul style="list-style-type: none">生活困窮者に対する家計改善支援（拡充）金融経済教育推進機構による、中小企業や支援団体と連携した金融経済教育の提供（拡充） <p>②希望に応じた高齢期の就業機会の確保</p> <p>65歳超雇用推進助成金の充実（拡充）</p> <p>③高齢期の所得保障</p> <p>年金改正法案の早期成立を図り、</p> <ul style="list-style-type: none">短時間労働者への被用者保険の適用拡大とともに、任意の適用に取り組む事業所を支援（拡充）社会経済情勢を見極め、基礎年金水準の低下が見込まれる場合には、基礎年金のマクロ経済スライドを早期に終了するために必要な措置を講ずる（新規） <p>④住宅確保の支援</p> <ul style="list-style-type: none">低廉な公営住宅の供給（継続）高齢者が着実に入居できるセーフティネット登録住宅の供給（拡充）見守りや福祉サービスへのつながりが提供される居住サポート住宅制度の創設・普及（新規）

3本柱の取組を支える実態調査・広報プロモーション	
①実態調査	性別、有業/無業、雇用形態等の属性別に細分化した追加インタビュー調査の実施（拡充） ソーシャルリスニング方式（※）を取り入れた調査等を通じた継続的な当事者のニーズ調査の実施（新規）
②周知広報	プッシュ型による情報提供の展開（拡充） ※SNS等で発信されている意見を収集、分析し、ニーズや課題感のトレンドを把握する方法 新ポータルサイトの立ち上げと合わせた広報の強化（新規）

図1 「新たな就職氷河期世代等支援プログラムの基本的な枠組み」の概要

多様であることに留意が必要です。このため、それぞれの地域やご本人のニーズに合ったきめ細かい支援を行うことが重要となります。

このような背景の下、2019年度の補正予算において、「地域就職氷河期世代支援加速化交付金」が創設されました。この交付金では、国が画一的にメニューを決めて支援するスタイルから一歩進めて、それぞれの地域の事情に応じて創意工夫し、就職氷河期世代の社会参加や就労を支援する地方公共団体の先駆的・積極的な取組を後押しすることを目指して、各地方公共団体を支援してまいりました。全国の地方公共団体の強い課題意識の下、多様な事業が展開され、2024年度実施分をもつて一旦、事業終了を迎えました。（2024年度実績…204団体（46都道府県、20指定都市、138市区町村）、160事業）

当該事業の終了を受け、2025年度においては、「社会参加活躍支援等孤独・孤立対策推進交付金」を創設し、同交付金の「個別支援事業」として就職氷河期世代の方々を引き続き着実に支援する一方、共通の課題を抱える周辺世代の支援も行うこ

といたしました。

こうした中で、政府としては、今後の就職氷河期世代の方々への支援を一層効果的に実施するため、関係閣僚会議において、周辺の世代と合わせ、引き続き、個々人の課題やニーズに応じたきめ細かい支援を効果的に実施していく旨を決定いたしました（上述「基本的な枠組み」参照）。

こうした方針を受け、今般12月16日に成立した2025年度補正予算においては、「社会参加活躍支援等孤独・孤立対策推進交付金」は廃止し、新たに、就職氷河期世代を全面的にバックアップする「地域就職氷河期世代等支援推進交付金」を創設したところです。

同交付金は、就職氷河期世代の方々への支援を中心に据えつつ、引き続き政策効果を高めるため、同様の課題を抱える周辺の世代の方々も含め、社会参加やリ・スキリングを含めた就労・活躍に向けた支援等を個々人の実情に合わせて行う地方公共団体を支援するものです。

具体的には、既存の取組や連携体制も生かしながら、アウトリーチ等

政 策

の支援から、相談支援、人と人との「つながり」を築くための居場所の確保、リ・スキリングやジョブ・マッチングなど、個々人の状況に合わせた社会参加や就労等への総合支援を実施する地方公共団体を後押しします。支援メニューは、次の12種を予定しています。なお、詳細については、今後変更となる可能性がありますので、最新の情報は内閣府ホームページ等をご確認ください。

①就労希望や処遇改善希望がある方等の資格取得に向けた支援、職業訓練や職場実習等にかかる費用等の助成、知識及び技術の習得を目的としたセミナー又は研修等の支援などリ・スキリングを含む支援（例：研修・実習、職業訓練、リ・スキリング講習会等の能力向上支援や資格取得に係る費用の助成）※就労体験や各種セミナーについて、リ・スキリングと一体的に行われるもの（実習、リ・スキリング講習会等）は、①の対象となります。一方で、基礎的なセミナー等については、他のメニューとなることにご留意ください。

②アウトリーチ支援や相談支援等、個々人の状況に寄り添った支援（例：出張相談、専門職の相談員の配置）

③多様な働き方・社会参加等の機会の創出支援（例：就労体験、企業向けセミナー）

④就労希望や処遇改善希望がある方等へのマッチングや説明会の開催支援（例：マッチングイベント、合同企業説明会、個人向けセミナー）

⑤社会参加や就労等に向けた活動のネックとなる経済的負担の軽減（例：就労体験等の日当・交通費の支給）

⑥他の国庫補助金等の対象となっている事業の充実・強化（例：地域若者サポートステーション事業の充実・強化）

⑦当事者同士の交流の場の設定、就職氷河期世代を取り巻く状況等に係る関係者の理解増進など、地域の実情に応じた支援（例：居場所や交流の場づくり、支援団体向けセミナー）

⑧中間的就労の機会の創出支援（例：受入協力金の支給）

⑨家計改善や資産形成に向けた金融

教育支援（例：親世代の高齢化に備えたセミナー）

⑩実態把握や効果検証を行う事業（例：実態把握の調査、アセスメント）

⑪以上①から⑩の取組について、事業効果を高めるための情報発信及び普及啓発（例：ウェブサイト制作、SNS広告）

⑫地方公共団体が相互に連携して上記の事業を広域化して実施する事業（例：都道府県が管内市町村と連携することで、スケールメリットを発揮するもの）

これまで事業の最前線で支援に取り組んでいただいている地方公共団体や関係機関等の皆様を一つにして、今後策定予定の「新たな支援プログラム」に基づき、引き続き、就職氷河期世代を中心に、周辺の世代も含め、社会参加や就労支援等が必要とする方々の幅広い社会参加・活躍支援を進めてまいりますので、ぜひ「地域就職氷河期世代等支援推進交付金」の活用をご検討いただきますようお願いいたします。

（なお、「社会参加活躍支援等孤独・孤立対策推進交付金」のうち、

地方公共団体が取り組む孤独・孤立対策の「基盤整備事業」への支援については、別途、「孤独・孤立対策推進交付金」として、2025年度補正予算に新たに計上されており、併せて活用をご検討いただきますようお願いいたします。）

☆Webサイト

- (一) 支援プログラム等について
https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/shushoku_hyogaki-shien/index.html
- (二) 交付金について
https://www5.cao.go.jp/keizait/c_hyogaki/c_hyogaki.html
https://www.cao.go.jp/kodoku_koritsu/torikumi/kouhukin/r07/r07_kouhukin.html

☆お問合せ先

- (一) 支援プログラム等について
内閣官房就職氷河期世代支援推進室
03-6257-3035
- (二) 交付金について
内閣府就職氷河期世代等支援推進室／孤独・孤立対策推進室
03-3581-4537

フォーラム



▲美浦トレーニング・センターの調教風景

茨城県 美浦村

「競走馬の里」美浦村
「観光資源を生かしたまちづくり」

美浦村の概要

美浦村は茨城県南部に位置し、国内第2位の湖表面積を誇る霞ヶ浦に臨む、水と肥沃な土壌に恵まれた自然豊かな村です。村の総面積は66.61km²で、そのうち陸地面積は34.03km²であり、陸地と湖沼の面積がほぼ同じという特徴を有しています。

本村には昭和53年に開場した日本中央競馬会（JRA）美浦トレーニング・センターがあり、滋賀県栗東市とともに「競走馬の里」としても知られております。開場した当時は多くの競走馬や関係者が本村へ移住し、大字名も「美駒」へ改められました。この施設は敷地面積約224万m²という東京ドーム約48個分の広大な敷地を有し、現在、

場内約1000の厩舎で約2,000頭の競走馬がトレーニングを行っています。

霞ヶ浦沿岸に広がる水田では、美浦トレーニング・センターから出る馬の



▲霞ヶ浦に面する平坦な地形



フォーラム



▲美浦小学校と美浦中学校

敷き藁堆肥を利用した米の栽培が盛んに行われています。化学肥料と農薬を極力減らして栽培された特別栽培米「美浦そたち」は、「茨城の誇るコシヒカリシリーズ」の一つにも選ばれた良質でおいしいお米です。同様に、馬の敷き藁堆肥を利用したマッシュルーム栽培も行われており、本村にプラントを持つ「芳源マッシュルーム株式会社」は、国内のマッシュルーム生産量の約4割を占めています。その他、国内最大級の養液栽培施設で栽培されるパプリカや、大型ハウス施設で栽培される高糖度トマト等、多様な農産物が生産されています。

本村では農業とともに、各種製造業の工場が立地しており、産業も盛んです。アメリカに本社を置き、本村では

昭和55年に操業を開始した半導体製造の外資系サプライヤ「日本テキサス・インスツルメンツ合同会社」や、本村に本社を置き、農業機械の分野で国内トップクラスの製造・販売を行う「スガノ農機株式会社」等が操業しています。

本村の現在の人口は令和8年1月1日現在13,896人で、人口減少及び少子高齢化が課題となっています。本村は令和7年度で村制70周年を迎えましたが、この節目に、児童数の違いによる教育格差をなくすことを目的として、3校あった小学校を1校に統合した「美浦小学校」を開校しました。統合小学校は、同様に村内に1校ある美浦中学校の敷地内に建設され、統合により遠距離通学となった児童が安心して通学できるよう、現在、計11台のスクールバスが毎日運行しています。

美浦村の歴史的観光資源

美浦村の歴史的観光資源としては、まず「陸平（おかだいら）貝塚」があげられます。陸平貝塚は日本屈指の規模を誇る縄文時代の貝塚遺跡で、縄文時代早期（約7,000年前）から後期（約3,500年前）の大小8ヶ所の貝塚群が残されています。縄文人の生活の舞台であった谷などの自然地形が、ほぼ完全な形で残されており、明



▲陸平貝塚にある竪穴住居と「みほーす」

治12年に日本人の手による最初の発掘調査が行われた遺跡として、「日本考古学の原点」とも呼ばれています。平成10年には研究者や周辺地域の開発企業、そして地元住民によるさまざまな活動が実を結び全国を代表する貝塚遺跡として国の史跡指定を受け、その保存が図られました。現在でも地域の方々とともに確認調査が実施され、美浦村文化財センターを中心に「陸平貝塚公園」として整備されており、また、陸平貝塚は本村のマスコットキャラクターである「みほーす」のモチーフでもあり、地元の子ども達が土器や縄文服等、当時の文化を知ることができるきっかけにもなっています。

また、本村の最東端となる霞ヶ浦湖畔には、旧大日本帝国海軍の鹿島海軍航空隊跡地があり、近年は「大



▲大山湖畔公園の汽缶場跡

山湖畔公園」として整備したことで、重要な観光拠点となりました。当初、この貴重な施設は敷地内外が荒れた廃墟となり存続が危惧されていましたが、歴史的文化遺産として後世に残すためのクラウドファンディングを実施し、目標金額を達成、必要な整備を進め令和5年から一般公開を行っています。

敷地内には主に水上飛行機の搭乗員を養成する練習航空隊のための施設が残され、戦後には医療施設としても使用された本庁舎や、当時のボイラーが現存する汽缶場跡等は、現在、多くの映画やドラマ、ミュージックビデオなどの撮影ロケ地としても活用されています。実際に撮影で使用された美術品や小道具を展示したイベントを開催することもあり、全国から多くの人が集

フォーラム



▲著者の大童澄瞳先生（左）観光大使委嘱状交付式の様子

観光大使による魅力発信

まるようになりました。近年では『ジョー・0（マイナスワン）』の撮影にも使用された自動車庫は、普段は「美浦村週末カフェ」として、キッチンカーの営業の場として活用され、霞ヶ浦周辺を楽しむサイクリスト達の憩いの場にもなっています。また、鹿島海軍航空隊の水上戦闘機の訓練場跡地は霞ヶ浦湖面に向かってなかなか傾斜になっているため、現在は「大山スロープ」と呼ばれ、水上バイクやプレジャーボート、フィッシングを楽しむ愛好家の聖地として親しまれています。

本村の特色を生かした観光促進を行うため、全国でも珍しい取組として、実在しない架空の人物である浅草みど



▲UMAフェスタで行われたゆるキャラ達の「JC（縄文カップ）」

り氏を令和6年に美浦村観光大使に委嘱しました。浅草氏は漫画「映像研には手を出すな！」の登場キャラクターで、先ほど紹介した大山湖畔公園にて実写映画及びドラマが撮影されたことをきっかけとした就任です。撮影後に本村で行われた「廃墟景観シンポジウム」では著者である大童澄瞳先生のトークショーも行われ、盛り上がりを見せました。

令和7年には、「ウマ娘プリティーダービー」でシンボルドルフの声優を務める田所あずさを美浦村観光大使に委嘱しました。大山湖畔公園のウォークスルーアトラクションで田所さんが登場人物の声を演じたことや、「ウマ娘プリティーダービー」と本村のコラボイベントの期間中にグラランドオープンした地域産品直売所「みほー

すふあーむ」のオープニングセレモニーにてゲストとして出演いただいたことをきっかけとした就任です。田所さんには、中山競馬場で行われている美浦村の名前を冠したレース「美浦ステークス」でのプレゼンターをはじめ、村内での式典やイベントの際の出演等、ご本人の芸能活動の中で本村のPR活動を行っていただいております。

美浦トレーニング・センターの協力により実現したイベント

令和7年9月には、村全体で「馬」の魅力を楽しむイベントとして「美浦村UMAフェスタ」が開催されました。初開催のイベントながら、美浦トレーニングセンター所属の現役の騎手や調教師によるトークショーも行われ、普段見ることのできないトレーニング・センター内の見学ツアー等もあり、全国各地から延べ7,000名の来場がありました。企画者は元地域おこし協力隊の南川麻綾さんです。競馬番組のリポーターも行ったことのある南川さんが、3年勤めた地域おこし協力隊の卒業企画として考え、トレーニングと村が一体となり実現したイベントでした。

当日は、「競走馬の里」をモチーフに、現役のプロアナウンサーの実況のもと

行われた近隣市町村のゆるキャラ達によるレース「JC（縄文カップ）」や、ポニーショー、ジョッキークーに教わる乗馬練習用木馬体験等、家族連れや地元住民も楽しめる企画もあり、村内各所で盛り上がりしました。

美浦村独自の取組

競馬ファンからは「美浦村IIトレセンのある競走馬の里」と認知されている本村ですが、一般的な知名度はまだ低く、そのため、美浦村を知ってもらうためにも「馬」を中心とした魅力の発信に日々努めています。本村独自の取組として、令和6年には地域産品直売所「みほーすふあーむ」にて特定の競走馬を特集したコーナーを設置したこともありました。特集したのは



▲地域産品直売所の競馬関連グッズコーナー

フォーラム

新任都道府県町村会長の略歴

三重県町村会では令和7年11月19日の理事会で次の通り会長を選出した。

（12月1日就任）

三重県町村会
会長
いなか とういん
員弁郡東員町長

みずた としお
水谷 俊郎

昭和26年11月15日生



【町村長としての当選回数】4回

【町村長に就任するまでの経歴】▽

昭和51年4月三重県庁に奉職▽昭和56年1月大成建設（株）に就職▽平成3年4月三重県議会議員▽平成18

「ライスシャワー号」と「マンハッタンカフェ号」で、それぞれ期間限定ながら多くのファンの集客がありました。菊花賞や有馬記念で実際に使用された調教セッケンや優勝レイ等、関係者の方々の協力により実現した貴重な展示が行われました。また、地域おこし協力隊の発案で令和7年に販売を開始した「蹄鉄やき」は、その名のとおり馬の蹄鉄の形をしたさまざまな味の

焼き菓子で、今ではみほ一すふあーむの定番のお土産として大人気です。競走馬が実際に使用した蹄鉄が一番の人氣商品として並んでいることもあり、セツトで購入するお客さんも多いです。店内各所にはレースで活躍する美浦所属騎手の等身大パネルが設置されている点も、本村の直売所独特の光景と言えるでしょう。騎手の顔や名前を覚えるのに一役買っているこの

年8月（株）中部安全施設に就職▽平成23年4月東員町長に就任

【町村会関係の経歴】

令和7年6月三重県町村会副会長

【主な業績】▽総合体育館体育施設リニューアル▽5歳児の幼稚園保育料無料化▽東員町16年一貫教育プラン策定▽員弁1300年記念事業

東員町発ミュージカル開催▽子どもの権利条例制定▽東員インターチェンジ開通▽コンビニ交付サービス開始▽町制施行50周年記念式典挙行▽東員町電力データとAIによるアウトリーチ型フレイル予防事業▽石垣定哉ミニギャラリー開設▽四日市大学と包括連携協定の締結▽マママチャカFEオープン▽東員第一中学校移転事業

【趣味】囲碁・ゴルフ・サッカー観戦
【家族】妻・娘2人・息子1人

パネルは、ファンだけでなく村民からも好評です。

みほ一すふあーむ近くの道路沿いには「Miho Vision」という情報発信用の大型電光掲示板を設置しています。このMiho Visionでは日常生活における災害予防や、村主催のイベントの周知等が主に行われますが、こちらでも独自の取組として、美浦トレーニングセンターに所属する競走馬がG1レースで優勝した際、勝馬のゴール写真とともにその勝利を祝う情報発信を行っています。これはもともと役場前の跨道橋に横断幕を掲げお祝いしていたもので、電光掲示板設置に伴い発信方法が変わりました。競馬をする、しないにかかわらず、競走馬の情報が当たり前に日常に溶け込んでいるのは本村ならではの風景となっています。

おわりに

ここまで紹介したように、本村は独自の特色を生かしたまちづくりに力を



▲みほ一すふあーむの名物スイーツ「蹄鉄やき」

もらう良いきっかけとなると注目しています。

美浦村の歴史的な魅力と、「競走馬の里」としての魅力、二つの側面を生かしながら、今後も独創的で意欲的なまちづくりに努めていきたいと思っています。

美浦村総務課



▲「Miho Vision」によるG1優勝の情報発信

入れており、特に近年では美浦トレーニング・センターとの協力体制を中心として取り組んでいます。例えば、令和7年に「美浦村体感 トレセン調教見学付き村内ツアーと特産品」を新たなふるさと納税の返礼品としました。これまでもトレセンに関わる返礼品は人気がありましたが、こちらは実際の調教風景を見学できるとして、出品して4日間ですべての枠が完売となりました。トレセンの魅力で集客し、そこから村内の他の施設にも興味を持ってもらう良いきっかけとなると注目しています。

情 報

地方公共団体金融機構

JFM では資金調達や資金運用について 出前講座・実務支援（個別相談）を実施しています

金融についての知識と経験が豊富な自治体ファイナンス・アドバイザー（金融機関出身のJFM 職員）等が
地方公共団体の費用負担なしで資金調達や資金運用についての講義やアドバイスをを行います。

出前講座

- ✓ 自治体ファイナンス・アドバイザー等が、実際に地方公共団体を訪問し
団体の要望に応じた時間、場所、内容で講義を実施します
- ✓ 方法は対面・オンラインどちらでも対応可能です

▼主なテーマ

資金調達

- 地方債の金利の見方
- 銀行等引受債の借入交渉のポイント
- 住民参加型市場公募債

資金運用

- 資金運用のリスクと管理
資金運用の法令と運用商品、預金の商品性とリスク管理、
債券の商品性とリスク管理、債券運用の手法

金融・経済

- 銀行の現状と指定金融機関
- 日本経済と金利の動向

財政関連

- 財政分析と地方債管理
- 財政収支見通しと人件費の長期推計
- 公営企業改革と公営企業決算の見方

実務支援（個別相談）

- ✓ 自治体ファイナンス・アドバイザー等が資金調達や資金運用などに関する具体的な
課題や疑問の解決に向けて専門的なアドバイスを実施します
- ✓ 方法は電話、メール、オンラインのほか現地での相談にも対応します

相談事例

- ・金利見直し方式のメリットやデメリットは？銀行等とどう交渉すればよいのか？
- ・債券による運用を始めるための体制整備を進めたいが、助言をもらえないか？
- ・金融機関から手数料引き上げについて依頼があったが何か特別な背景があるのか？

金融についての小さな疑問でもお気軽にご相談ください。

Web サイトに過去の相談事例を掲載しています。こちらをご覧ください。▶▶▶



電話・メールで申込を受付しています
お気軽にお問合せください

●支援の詳細や実施までの流れは機構 Web サイトでご確認ください。
<https://www.jfm.go.jp/support/development/index.html>

地方支援部ファイナンス支援課
☎ 03-3539-2677 ✉ finance@jfm.go.jp

JFM 出前講座／実務支援

検索



金融で地方財政を支え 地域の未来を拓く
地方公共団体金融機構
Japan Finance Organization for Municipalities

まちむらの魅力発信!

Vol.3



全国926町村には、それぞれにその場所ならではの輝く資源があります。
そのまち、そのむらが、今発信したい魅力を紹介していきます。



養殖ホタテ発祥の地である平内町は、**単一漁協での水揚げ日本一になったことがある「ホタテ王国」**です。

冷たい海域を好むホタテは古くから陸奥湾に生息していましたが、自然発生に依存していた時代には、年によってその漁獲量に大きな変動がありました。そこで、昭和30年代から平内町出身の豊島友太郎氏がホタテの養殖の研究に取り組み、「タマネギ袋」を使った育苗生産に成功。ホタテの稚貝をカゴに入れ海中に吊るして育てる垂下養殖が本格化し、安定的な収入を得られるようになったため、漁師は出稼ぎから解放されることになりました。

しかし近年は猛暑の影響で海水温が上昇し、2024年、25年と続いて稚貝が大量死する被害を受けています。町だけでなく、県をあげて高水温下での養殖体制の確立を模索しています。



雪解け水が流れ込む陸奥湾で
育つホタテは甘みが強いのが特徴。

食

雪解け水で育つホタテ
高水温対策を模索中



青森県

平内町の
養殖ホタテ



住民同士の交流とともに、村外から人を呼び込むこともめざす。

舟橋村は**面積3・47km²と全国で最も小さい自治体**です。一人ひとりの顔が見えるこぢんまりしたところが魅力であるとともに、富山市に隣接していることから子育て世代の転入も多く、国土交通大臣賞を受賞した都市公園「オレンジパーク」で定期的に開催されている「月イチ園むすび」など、子育てママを中心とするコミュニティづくりも盛んです。

2024年からは新旧住民のコミュニケーションをはかるため、あるプロジェクトを始めました。休耕田にひまわりを植え、種からひまわり油を搾り、ドレッシング、ハンドクリームへの製品化までをめざす、老若男女の住民が共同で行う「サンフラワープロジェクト」です。立山連峰を臨むひまわり畑沿いには富山地方鉄道が走り、ひまわりが見頃となる8月中旬は鉄道ファンも訪れる観光資源となりつつあります。

文化

新旧住民がともに
取り組むプロジェクト



富山県

日本一小さい村
舟橋村

阿波みかん栽培発祥の地として知られる勝浦町。勝浦川西岸の山腹にはみかん畑が広がり、**徳島県では温州みかん生産量1位**を誇っています。

ところが、消費者の変化などからみかんの消費量は年々減る傾向にあります。そこで、競争力を強化しようと町が力を入れているのが熟成みかんです。12〜1月に収穫したみかんを約2カ月熟成させることで、味の濃い「勝浦熟成みかん」が生まれます。2〜3月に食べられるみかんとしてテレビやラジオなどでも積極的にPRしており、「勝浦のみかんはおいしい」というイメージが浸透。イベントへ参加しても大人気なのだとか。「道の駅ひなの里かつうら」では通販も行い、熟成みかんを絞ったストレートジュースなどの加工品も人気を集めています。



適切な温度・湿度で管理した貯蔵庫で、じっくりと熟成。

食

2月、3月に食べられる
甘みの濃い温州みかん



徳島県

勝浦町の
熟成みかん

町村

ご当地キャラじまん

Vol.184

山形県小国町



特産品だけじゃない！

文化・歴史を身にまとして観光大使！！

ご当地自慢のおいしいものや伝統行事を身にまとい、
体を張ってPRしているご当地キャラたちを紹介するコーナーです。

北海道赤井川村
北海道奥尻町

2014年、赤井川村の認知度向上や観光・地域のPRを目的として、キャラクターを一般公募しました。「村のお米や農産物が大好きで農作業が得意な女の子」という設定で誕生したのが「あかりん」です。赤井川村の「赤」を图案化した村章がデザインされた笠をかぶり、農作業用の服を着ています。大きな瞳と話し言葉の語尾が「ですの」となるのがチャームポイントなのだとか。村内のお祭りやイベントに参加するほか、北後志観光連絡協議会「FANSY」が主催する後志管内のイベントでも活躍しています。グッズの販売も多数あり、いつも元気いっぱいな笑顔で、老若男女から人気が高い「あかりん」。これからも、赤井川村のPR活動を続けていきます。

あかりん

北海道赤井川村



赤井川村公式キャラクター



10月1日生まれ。素直で前向きな女の子。赤井川村の自然や農業が大好き。特技は「かなぞり」。趣味は農作業とスポーツ全般。好きな食べものは、村産のお米「ゆきさやか」や農産物。

奥尻町マスコットキャラクター

うにまる

北海道奥尻町



1988年の「ふるさと創世事業」を活用し、奥尻町のシンボルである「ウニ」をかたどったモニュメントと全国から集めた「21世紀への愛のメッセージ」を入れたタイムカプセルの設置と開設にあわせて、その事業と奥尻町のPRをするため、1989年に「うにまる」が誕生しました。モチーフとなっているのは、奥尻町特産品「キタムラサキウニ」です。5月～9月には奥尻港フェリーターミナルで観光客のお出迎えを行うほか、島内外のイベントに参加し、奥尻町のPR活動を行っています。誕生から35年たった2025年、「うにまるくん」着ぐるみ修復プロジェクト」のクラウドファンディングによって着ぐるみが新調されました。パワーアップした「うにまる」は、これからも奥尻町のPR活動での活躍が期待されています。



いたって温厚な性格。人前に出るのが好きで、特に観光客をお出迎えするのが大好き。好物はコンブ。雨風や激しいリアクションは苦手。日によって形が変わる。時々語尾に「うに」となったり「あー」となる。

白い森観光大使

フラビーマン・フラヴィーナ



「フラビーマン」（写真右）は、カメラシモン「ヘンクサー」と戦うヒーロー。得意技はフラビーム。「フラヴィーナ」（写真左）は、「フラビーマン」のガールフレンド。

小国町は、「わらび」の生産量が国内トップクラスで、日本初の「観光わらび園」があることでも知られています。そんな小国町をPRする「フラビーマン」と「フラヴィーナ」のモチーフはもちろん、「わらび」です。また、小国町は、町の95%が森林という自然豊かな町で、「ふなの木」の幹と「雪」のイメージをもとに町全体を「白い森」と呼んでいるため、ふたりの肩書きも「白い森観光大使」となっています。「道の駅 白い森おくに」には「フラビーマン」と「フラヴィーナ」が描かれた自動販売機が置かれているほか、Tシャツなどのグッズも販売されているという人気ぶり。地元の子どもたちが振り付けを考案した「フラビーマンダンス」もイベントなどで披露しています。町内のみならず、首都圏で実施される物販やイベントにも参加し、ふたり仲良くPR活動を行っています。

山形県小国町



随 想

「神津島の概要」

上古時代大国主命の長子、積波八重事代主命(三島大明神)は、「国土を天孫ににぎの命に譲り、出雲の国から多数の眷属、随従の神々をひきいて海路はるばる伊豆の国に渡られて伊豆の島々を焼き出し給う」と伝えられています。(伊豆国式内一宮御神威略記) また三宅記には、「先ず第一の島を初島と名付け給う、第二は神々集まり玉いて島々を造り給

朝寝坊した利島の神様がやってきたときには、水はほとんど残っていませんでした。それを見た利島の神様は怒り、水がわずかに残った池に飛び込んで暴れまわりました。この水が四方八方に飛び散り、神津島ではいたるところから水が湧き出るようになった」と語り継がれています。神津島は、東京から178km、伊豆諸島のほぼ中央に位置し、面積18・58km²、周囲22km一島一村の島です。

光業で、各産業とも高齢化や後継者不足により厳しい状況となっています。これらを解消し島の持続可能性をめざして、それぞれの取組を展開しています。

1、農業の主な換金作物はアシタバ、レザーファンとなっていますが、さらなる農業の活性化をめざして新規就農者の育成や支援を行うとともに、島に適した新たな換

東京都と連携した事業展開を図っています。

3、観光業は、最盛期には年間10万人弱の来島客がいましたが、現在は45,000人〜50,000人で推移しており、夏季シーズン集中型から周年観光をめざして星空保護区・グリーンツーリズムを軸に、全天候型の複合観光施設やワーケーション施設、島内で利用できるライドシェアサービスを展開するなど新たな取組に挑戦しています。



神集う島神津島

東京都神津島村長

前田

弘

う事を詮議ありし島なるが故に神集島と名付く、云々」と記されており、この「神集島」が神津島の名の由来とされており、この由来にちなんでの水配り神話があります。

「昔々「神津島」の天上山の頂に伊豆七島の神様達が集まり水の分配について会議が開かれました。一番早く着いたのは御蔵島の神様、次は新島、三番目は八丈島、四番目は三宅島、五番目は大島でした。最後に、

島の中央には、花の百名山並びに新日本百名山の一座に名を連ねる天上山をはじめ、宮塚山、高処山、秩父山が座し、急峻で平地が少ない地形となっています。

島の人口は、昭和30年代の約2,800人をピークに、年々減少し、令和7年11月1日現在1,719人と、過疎化が進んでいます。

「島の持続可能な取組」

島の主な産業は、農業・漁業・観光

金作物を模索しています。またスマート農業基盤の整備により品質管理や労力の軽減を図り持続可能な農業をめざしています。

2、漁業は、東京諸島で最も盛んに操業されており、キンメダイを中心に都内の市場に出荷されています。しかし、資源の枯渇や燃料・資材の高騰などにより厳しい漁家経営となっていることから、陸上養殖による「育てる漁業」を模索、

むすびに 私たちがこれまでに経験したことのない社会状況の中、全国的に少子高齢化と人口減少が問題となっており、本村も例外ではありません。

そのような状況においても、神津島で暮らすことで、私たち一人ひとりが心身ともに健康で豊かに日々を送れるよう、神津島村が基本理念とする「誰もが健やかで、生き生きと活力のある島づくり」の実現に向けて、農業・漁業・観光業の主要産業の活性化を図ると同時に、インフラ整備や社会福祉、防災、教育の充実等に取り組んでいきます。